

俳句コンクール成績発表

S 25 専電 塚越としを

〔兼題…晩夏・百合・月見〕

【特選】 入り船の汽笛長引く晩夏かな

S 24 専舶 草刈 董

評 漁船でしようか、客船でしようか、入港の合図の汽笛がけだるく、聞こえます。晩夏の季節感が良く出ています。

黒々と利根月光をのみ込み

会友 平野 昌子

評 大利根月夜ですかね。悠々と流れる利根川に満月が映っています。さも、月を呑み込んで了ったような雄大な風情です。

【佳作】

果てしなく続く轍や晩夏光

S 24 専舶 草刈 董

(連綿と続く車輪の跡と晩夏光の季語との対比が動かない) 山百合の高みに揺れてをんな坂

(正に女性の時代でしようかね。然し、「排除」は程々にね) 百合の香を憂しといふ日の母弱し

会友 平野 昌子

(芳醇な百合の香、然し、女盛りを過ぎた今では鬱陶しいか) 星屑もきらら那須野の月見かな

S 30 学機 檜山 邦良

(大気 of 澄んでいる土地での月見、さぞかし美しいことでしょう) くるまゆり姿小振りな山乙女

(山歩きをしながら、ふと、清純な恋に思いを馳せた、詩的です) 潮満ちて朱塗りの映える大鳥居

S 38 学電 綿引 貞男

(厳島神社ですか、正に、実景です。) 一輪の芒を照らす月明り

(月見の宴のひとこま。お団子もありますか、お月様が喜んでいます) 秋の空飛行機雲の一字

S 47 学電 金坂 潤

(情景が良く見えます。俳句はこれで上々です) 透明に鈴の音幽し虫の宴

〃

(鈴虫でしようか、その音を「透明」と感じたところに共鳴) 公園の一輪の百合母想ふ

〃

(亡き母上は百合の花が好きでした) 行く夏の繁みに咲ける百合の花

S 32 学金 穂坂 邦光

(百合の花の存在感は、見事ですな) 暮の秋女房ともども老いにけり

〃

(寂寥感ですか、まだまだ早いですよ) 草の虫闇にきらめくシンフォニー

金坂かおる(潤氏夫人)

(「きらめくシンフォニー」がよろしい、感性に納得)

【選者吟】

恐竜展ティラノサウルス晩夏光

としを

庭隅に香りとどめてスカシユリ

〃

大屋根に鴟尾の貫禄十三夜

〃